

児童発表型



松山市立荇原小学校  
石田 年保

実践テーマ

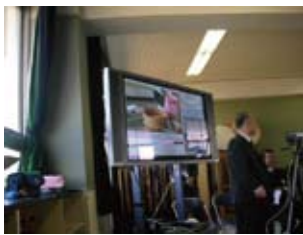
映像を通して友だちの伝えたい事がらを読み取り、米と自分たちのつながりについて考えることができる。

授業の進め方、デジタルテレビ等活用の仕方

- 導入：・授業教室と家庭科室の中継を行い、それぞれの活動情報を共有させる。（興味関心を高める）  
・教師が作成した今までの活動の様子を視聴し、児童に自分たちの取り組みを振り返らせる。（興味関心を高める）
- 展開：・各グループが作成した米に関する番組を視聴し、米と自分たちとのつながりを考えさせる。（思考を広げ・深める）  
・高校生が調べた地域食に関する発表を聞き、地域色のよさや人のかかわりをつなげる米の役割を意識させる。（知識を広げる）  
・学校長が作成した「赤米醤油餅」の動画を視聴する。（知識を広げる）

本時の展開

主な学習活動		
学習の流れ	主な学習活動	使用する教材 (デジタルコンテンツ等)
導入	・今までの活動のビデオクリップ（動画①）を視聴し半年間の自分たちの活動を振り返る。 ・家庭科室と発表会場を同時中継し、互いの活動の様子を伝え合い、これからの活動への期待感を高める（TV会議①）。	●自作ビデオクリップ（教師作成） ●高画質テレビ会議システム
展開	・小学生が作成した米に関するビデオクリップを視聴し、感想を発表する（動画②）。 ・高校生が作成した「おもぶりごはん」（松山の郷土料理）に関する発表を聞き、感想を発表する（TV会議②、動画③）。 ・高校生が家庭科室で調理した「おもぶりごはん」や学校長が調理した赤米醤油もちを試食する（動画④）。	●自作ビデオクリップ（児童作成） ●自作ビデオクリップ（生徒作成） ●自作ビデオクリップ（校長作成）
まとめ	・今日の活動を振り返り、米と自分たちとのかかわりについての理解を深める。	



別教室での高校生の様子を見る



児童が作成したビデオクリップで調べたことを伝える



高校生が郷土料理について説明する

児童の反応・効果

- ・電子黒板で映像を拡大提示し活動を振り返らせたり、二元中継を行ったりすることにより、児童の授業に対する意欲が高まった。
- ・臨場感あふれる高精細な映像と児童の言葉で伝えることにより、通常の発表では伝わりにくい体験したときの臨場感や感動までも伝え合うことができた。

活用のポイント

- ・児童が作成するビデオクリップの作成の過程に多くの学びがあるので、そのプロセスを大切にすると、児童の情報活用の実践力が高まる。
- ・映像から分かったことや考えたことを構造的に板書で表すことにより、作成した児童の活動の意味や価値について自覚させることができる。また、映像を通して自分たちの思いや考えが「伝わった」という実感をもたせることができる。